日本社会福祉学会　第66回秋季大会

# 地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する一研究（その1）

## ― 共修授業に係る自由記述の年度別による比較分析をふまえて―


奥村　あすか　（長崎純心大学人文学部）
潮谷　有二　（長崎純心大学人文学部）
永田　康浩　（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター）
吉田　麻衣　（長崎純心大学人文学部）
宮野　澄男　（長崎純心大学人文学部客員教授）


長崎純心大学　HP：http://www.n-junshin.ac.jp/univ/
長崎純心大学医療・福祉連携センター　HP：http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/
Facebook：https://www.facebook.com/cmw.n.junshin/
長崎大学地域包括ケア教育センター　HP：http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/index.html



# Ⅰ．目的

- 平成26年6月の「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」（医療介護総合確保推進法）の公布以降，医療と介護を一体的に供給する地域包括ケアの構築が喫緊の課題となっており，医療と介護の連携に資する様々な体制整備が図られてきている．
- また，地域包括ケア研究会報告書（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング，2017）では，数々の大学が多職種連携教育（以下,IPE という.）を導入している背景を踏まえて，専門職教育課程におけるIPEの必要性を指摘している．このような状況の中，長崎大学医学部と長崎純心大学（以下，本学という．）は，地域包括ケアシステムを想定し，構造化された教育目標，教育内容，教育教材等によって構成される医療と福祉に係る大規模な多職種連携教育（IPE）の共修授業を，両大学の体系的なカリキュラムの一つとして位置づけ，平成27年度から毎年度にわたって実施してきている（潮谷ら，2017）．
- 確かに，これまでの共修授業に係る成果については，奥村ら(2017，2018)，潮谷ら(2017)，永田ら(2017)，吉田ら(2018)が関係学会や論文等にて報告してきたが，その内容については数量的に分析を行ったものであり，様々な主観や文脈を捉えることができる質的データに関する分析はされていない状況にある．

そこで，本研究では，共修授業を受講した学生のテキストデータをテキストマイニングによる分析を行うことにより，共修授業についてどの様に捉えたのかを探索的に明らかにすることを目的とした．



# Ⅱ．方法

| | H27年共修授業（以下，H27という．） | H28年共修授業（以下，H28という．） | H29年共修授業（以下，H29という．） |
|---|---|---|---|
| (1)調査方法 | 質問紙を用いた自計式の調査を実施 | | |
| (2)調査期間 | 平成27年11月4日と11月11日 | 平成28年10月26日と11月2日 | 平成29年10月25日と11月1日 |
| (3)調査対象※1 | 長崎大学医学部医学科生124人，同大学医学部保健学科生110人，本学初履修者36人※2 | 長崎大学医学部医学科生120人，同大学医学部保健学科生112人，本学初履修者37人※2，本学履修済み14人 | 長崎大学医学部医学科生123人，同大学医学部保健学科生114人，本学初履修者26人※3，本学履修済み20人 |
| (4)分析対象者数 | 266件（1回目）<br>265件（2回目） | 279件（1回目）<br>270件（2回目） | 276件（1回目）<br>272件（2回目） |
| (5)分析方法 | 「本日の授業の感想を記入しましょう 」という問いへの回答であるテキストデータを対象に樋口（2004）が開発したKH Coder 2.00fを用いてテキストマイニングを行い，共修授業の感想について分析を行った．具体的な手続きとしては，最初に，テキストデータに使用されている語句の修正や段落の妥当性について検討するため，テキストデータのクリーニングを行った．なお，研究のプロトコルはスライド6に示す通りであり，潮谷（2012），樋口（2014）を参考に分析を行った． | | |

※1　共修授業は，長崎大学医学部医学科生及び保健学科生は2年生対象の必修科目であり，本学では3年生以上を対象とした選択科目の一環として実施されている．
※2　本学初履修者の学科について，H27 及び H28 は全員，現代福祉学科生である．
※3　H29 は比較文化学科生 1 人，人間心理学科生 1 人，それ以外は 地域包括支援学科生（旧称・現代福祉学科）で構成されていることを付記しておく．



| | H27年共修授業（以下，H27という．） | H28年共修授業（以下，H28という．） | H29年共修授業（以下，H29という．） |
|---|---|---|---|
| (6)倫理的配慮 | 回答は本授業の教育効果の評価及び今後の授業作成のために使用するとともに，記載内容が成績に影響することはないこと，さらに，回答の可否によって不利益が生じないことを事前に説明した．また，データクリーニングの際には，個人が特定されることができないように必要に応じて，自由記述の文章にマスキングを行った．なお，本研究については，長崎大学医歯薬学総合研究科倫理委員会の承認を得ていること，日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守し，個人情報の取り扱いに注意を払っていることを付記しておく． | | |
| (7)外部変数 | | | |
| 年度別 | H27（n=531） | H28（n=549） | H29（n=548） |
| 年度別と事例別 | H27-急性期(n=133)<br>H27-慢性期(n=133)<br>H27-緩和・終末期(n=134)<br>H27-治療継続拒否(n=131) | H28-慢性期(n=284)<br>H28-緩和・終末期(n=265) | H29-慢性期(n=283)<br>H29-緩和・終末期(n=265) |

# 事例について

| | | |
|---|---|---|
| 事例1<br>急性期 | • 72歳，男性<br>• 脳梗塞後右片麻痺<br>高血圧症 | ✓ 妻との二人暮らし<br>✓ 主介護者である妻は要支援2であり，<br>見当識障害を有する |
| 事例2<br>慢性期 | • 80歳（H28とH29では81歳），男性<br>• 認知症・2型糖尿病<br>• 散歩中，道に迷い警察から保護 | ✓ 妻との二人暮らし<br>✓ 主介護者である妻が疲弊状態 |
| 事例3<br>緩和，<br>終末期 | • 40歳（H28，H29では41歳），女性<br>• 乳がん，多発脳転移 | ✓ 要支援1の母との二人暮らし<br>✓ 主介護者である母と本人との意向に齟齬<br>✓ 母が介護保険サービス利用困難 |
| 事例4<br>治療継続拒否 | • 80歳，女性<br>• 腰椎圧迫骨折，高血圧症，<br>2型糖尿病，骨粗鬆症，認知症 | ✓ 一人暮らし<br>✓ 本人が希望する在宅生活継続に対して主介護者である長女が不安 |

- H27は事例1から事例4の4つの事例を使用し，H28とH29は事例2と事例3の2つの事例を使用した．
- 共修授業で使用した事例は，実際の現場の事例ではなく，医療・福祉関係者や大学関係者が共に共修授業用の仮想事例を考え，事例に対するシナリオと情報シートを作成して学生に事前配布を行った．

※詳細事例については長崎純心大学医療・福祉連携センター「平成27年度事業報告書」を参照されたい．
（http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/study/h27_iryou-jigyouhoukokusyo_resize.pdf）

※本スライドは，奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか（2017）「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部との共修授業に関する一研究－社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その2）」『純心人文研究　第23号』，pp.91－114で用いた図を基に加筆修正したものである．



# 研究のプロトコル

| |
|---|
| 1　テキストデータに関する分析 |
| (1)基本統計量の算出 |
| (2)上位50語の観察 |
| (3)共起ネットワーク分析 |
| (4)kwicコンコーダンス分析とコロケーション統計の算出 |
| (5)テキストデータに関する同義語処理と分析に用いる品詞の選定，強制抽出語の選定 |
| 2　強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析 |
| (1)基本統計量の算出 |
| (2)上位50語の観察 |
| (3)共起ネットワーク分析 |
| 3　外部変数を用いたテキストデータに関する分析 |
| 3-1　年度別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析 |
| (1)外部変数を用いた共起ネットワーク分析 |
| (2)外部変数を用いた対応分析 |
| (3)共修授業に関する自由記述における意味の解釈 |
| 3-2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析 |
| (1)外部変数を用いた共起ネットワーク分析 |
| (2)外部変数を用いた対応分析 |
| (3)共修授業に関する自由記述における意味の解釈 |



# Ⅲ．結果　1．テキストデータに関する分析結果

表Ⅲ－1　抽出語の基本統計量

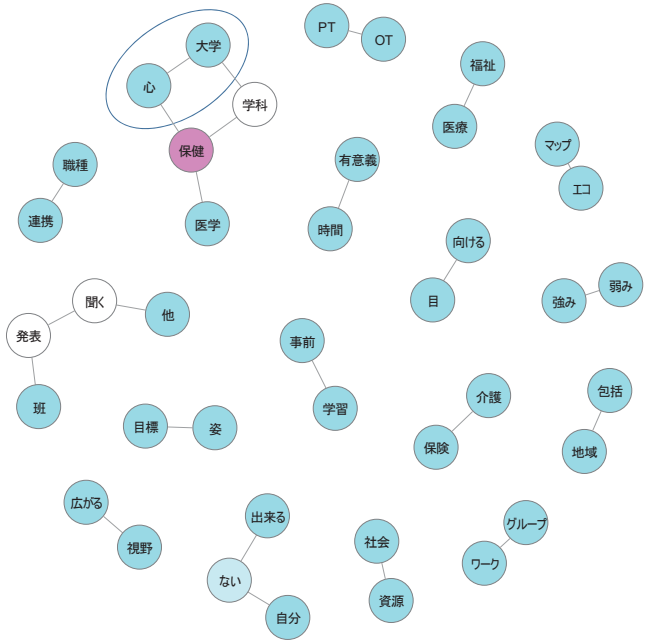
| | |
|---|---|
| 総抽出語数 | 151,939 |
| 異なり語数（使用） | 3,255（2,770） |
| 抽出語の出現回数の平均 | 21.62 |
| 抽出語の出現回数の標準偏差 | 106.61 |
| 文 | 6,663 |
| 段落 | 1,628 |
| H5 | 1,658 |

表Ⅲ－2　上位50語の抽出語リスト

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---|---|---|---|
| する | 2782 | 知識 | 445 |
| 出来る | 2255 | 班 | 431 |
| 思う | 1558 | 今回 | 430 |
| ない | 1544 | 医療 | 416 |
| 意見 | 1165 | 学科 | 407 |
| 自分 | 1069 | 良い | 393 |
| 考える | 892 | 専門 | 389 |
| グループ | 863 | 様々 | 371 |
| なる | 860 | 違う | 355 |
| ある | 845 | 分かる | 343 |
| 視点 | 693 | いう | 305 |
| 職種 | 655 | 学ぶ | 304 |
| 人 | 646 | それぞれ | 302 |
| 患者 | 591 | 今日 | 297 |
| 発表 | 573 | 大学 | 294 |
| 福祉 | 553 | 出る | 281 |
| 感じる | 542 | 看護 | 267 |
| 事例 | 513 | 連携 | 264 |
| 他 | 505 | 勉強 | 261 |
| とても | 503 | 心 | 260 |
| 知る | 503 | 考え | 259 |
| 聞く | 493 | 社会 | 255 |
| 良い | 492 | 学生 | 254 |
| 授業 | 490 | 多い | 246 |
| ワーク | 452 | 行う | 242 |



# 1．テキストデータに関する分析結果



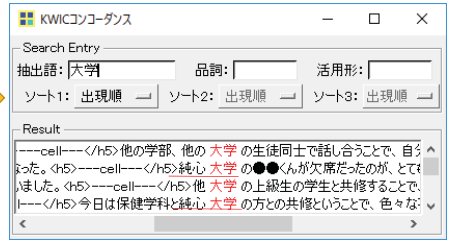

最小出現数：33
最小文書数：1
集計単位：文
分析対象となった抽出語　253語
品詞：名詞，サ変名詞，形容動詞，固有名詞，組織名，人名，地名，ナイ形容，副詞可能，未知語，感動詞，動詞，形容詞，副詞，名詞C，否定助動詞
Jaccard係数≧0.2
Node=40
Edge=24
Density=.031

図Ⅲ－1　　共起ネットワーク分析の結果

表Ⅲ－3　品詞別の抽出語リスト（一部）

| 組織名 | |
|---|---|
| 長崎純心大学 | 12 |
| 長崎大学 | 12 |
| 長大 | 5 |
| キーパー | 1 |
| フレンドリー | 1 |
| 上智大学 | 1 |
| 人名 | |
| マネ | 5 |
| 純大 | 4 |
| 完治 | 2 |
| 笑 | 2 |
| 等 | 2 |
| 五島 | 1 |
| 甲斐 | 1 |

| 名詞 | |
|---|---|
| 自分 | 1069 |
| グループ | 863 |
| 視点 | 693 |
| 職種 | 655 |
| 患者 | 591 |
| 福祉 | 553 |
| 事例 | 513 |
| ワーク | 452 |
| 知識 | 445 |
| 医療 | 416 |
| 学科 | 407 |
| 専門 | 389 |
| 大学 | 294 |



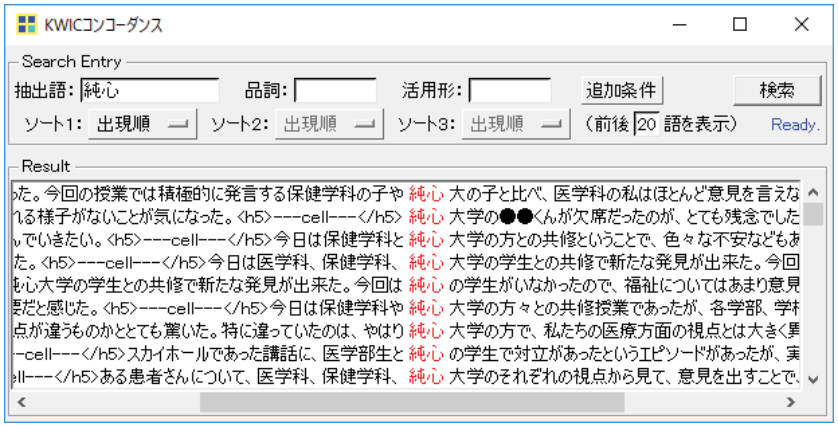

図Ⅲ－2　抽出語「大学」のＫＷＩＣコンコーダンス分析

図Ⅲ－3　抽出語「大学」のコロケーション統計

分析結果を踏まえて，純心大学と長崎純心大学，純大，純心，また，長崎大学と長大など，同じ組織をあらわすと推察される抽出語が観察された．

特に，純心，純心大学については，純（その他）/心（名詞C）に分類されていることが分かった．






図Ⅲ－4　　強制抽出語「純心」のＫＷＩＣコンコーダンス分析

- そこで「長崎純心大学」「純心」を強制抽出した結果，「純心」という語が252回出現しており，文中で「純心」がどのように用いられているか把握するためにKWICコンコーダンス分析を行った．
- 「純心」を含む文章を一つずつ確認し，同義語としての判断が妥当と考えられる抽出語には，同義語処理を行った．



## 同義語処理と語の取捨選択について

表Ⅲ－4　　同義語処理と強制抽出を行った語句

| 同義語処理前の語句 | 同義語処理後の語句 |
|---|---|
| 長崎純心大学/純心大学/純心大/純心 | 純大 |
| 長崎大学 | 長大 |
| リハビリテーション/リハ | リハビリ |
| 癌/ガン | がん |
| ケアマネージャー | ケアマネ |
| **強制抽出した語＝タグ** | |
| 純大 | Bさん |
| 長大 | Cさん |
| 多職種 | Dさん |
| 他職種 | 具体的 |
| 他の職種 | 社会資源 |
| エコマップ | 介護保険 |
| 認知症 | 他学科 |
| 医学科 | 他の学科 |
| 保健学科 | 看護師 |
| グループワーク | 出来なかった |
| 強み | 知らなかった |
| 専門職 | 知らない |
| 専門性 | 分からない |
| 専門分野 | 出来ない |
| 模造紙 | 分からなかった |
| Aさん | |
| **使用した品詞** | |
| 名詞，サ変名詞，形容動詞，ナイ形容，未知語，タグ，動詞，形容詞，名詞C，否定助動詞 | |



## ２．強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果

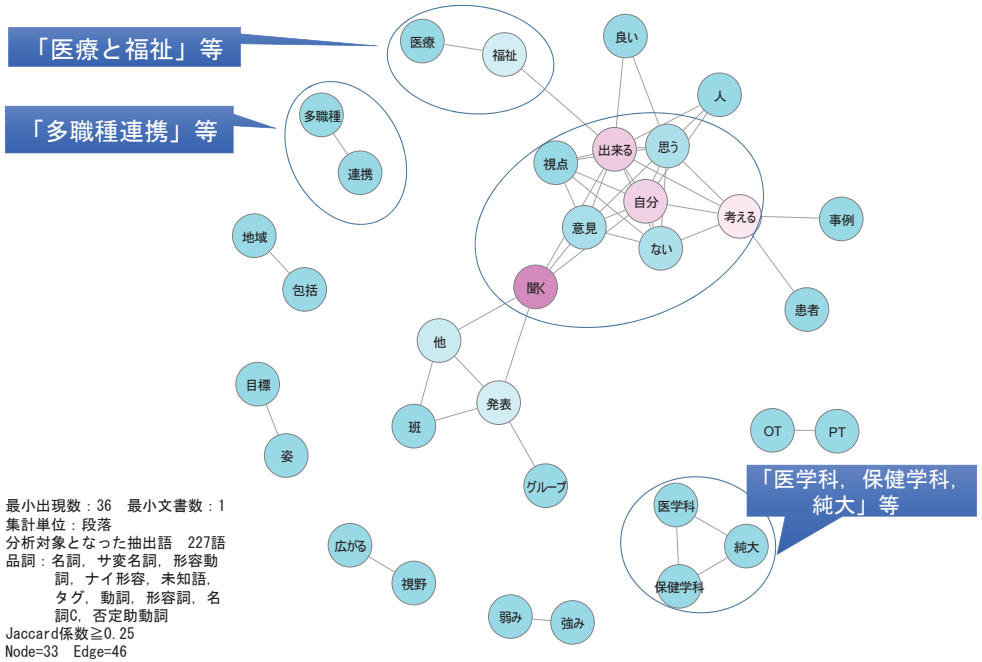
表Ⅲ－5　抽出語の基本統計量

| | |
|---|---|
| 総抽出語数 | 148,647 |
| 異なり語数（使用） | 3,302（2,245） |
| 抽出語の出現回数の平均 | 20.41 |
| 抽出語の出現回数の標準偏差 | 89.35 |
| 文 | 6,663 |
| 段落 | 1,628 |
| H5 | 1,658 |

表Ⅲ－6　上位50語の抽出語リスト

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|---|---|---|---|
| 出来る | 2112 | 学ぶ | 304 |
| 思う | 1558 | 出る | 281 |
| 意見 | 1165 | 職種 | 273 |
| ない | 1117 | 純大 | 268 |
| 自分 | 1069 | 連携 | 264 |
| 考える | 891 | 勉強 | 261 |
| 視点 | 693 | 考え | 260 |
| 人 | 646 | 学生 | 254 |
| 患者 | 591 | 分かる | 252 |
| 発表 | 573 | 多い | 245 |
| 福祉 | 553 | 行う | 242 |
| 感じる | 542 | 話し合い | 229 |
| 事例 | 513 | 共修 | 227 |
| 良い | 494 | 理解 | 222 |
| 聞く | 493 | 異なる | 220 |
| 授業 | 490 | 大切 | 216 |
| 知識 | 445 | 必要 | 212 |
| グループワーク | 438 | 話し合う | 212 |
| 班 | 431 | 支援 | 208 |
| グループ | 425 | サービス | 204 |
| 医療 | 416 | 考え方 | 203 |
| 他 | 404 | 目標 | 197 |
| 様々 | 371 | 持つ | 194 |
| 違う | 355 | 多職種 | 194 |
| 知る | 315 | 介護 | 189 |

## 2．強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果




最小出現数：36　最小文書数：1
集計単位：段落
分析対象となった抽出語　227語
品詞：名詞，サ変名詞，形容動詞，ナイ形容，未知語，タグ，動詞，形容詞，名詞C，否定助動詞
Jaccard係数≧0.25
Node=33　Edge=46
Density=.087

図Ⅲ－5　強制抽出後の共起ネットワーク分析の結果



## 2．強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果

表Ⅲ－7　共修授業テキストデータの文章（一部）

| 受講生 | 「出来る」「自分」「考える」「聞く」を含む文章（一部） |
|---|---|
| H29,2回目,保健学科生<br>慢性期 | 本日の授業では事例1のBさんの目標から考えられる様々な職種について考える事が出来た．他のグループの発表を聞いて，今まで詳しく知らなかった職種について知る事が出来たし，それぞれの役割について知る事で自分の職種についても考える事が出来た． |
| H28,1回目,純大生<br>緩和・終末期 | （略）自分の考えだけでなく，他学科の人たちの意見を聞くことで，幅広い視野で考えることが出来た．しかし，幅広く考えると考えすぎてしまう部分が出てきてしまった．また，自分の専門性について考える機会にもなった． |
| H28,1回目,医学科生<br>緩和・終末期 | これまでの講義とは異なり，具体的な事例から色々なことを考えていくという講義形式はとても新鮮であり，学ぶことも多かったように感じた．また，自分とは異なる意見や，知らなかった事など聞くことが出来，視野が広がったと思う． |
| **受講生** | **「ない」を含む文章（一部）** |
| H27,1回目,医学科生<br>急性期 | 自分が専攻している分野（医学）だけではなく，他からの視点（看護や福祉）からの意見が得られたことが面白かった．初対面ということもあり，始めた時はあまり意見も出てこなかったが，徐々に打ち解けてきて喋りやすくなった．症状がよくある話だったので，親しみやすく，親近感やある種の緊張感を持って討論を進めることが出来た．私たちは治すことが専門で，そのことしか考えていなかったと痛感させられた． |
| H29,1回目,保健学科生<br>慢性期 | 今回の活動を通して，自分の専門分野だけではない他職種(特に介護士)について知ることが出来た．（略） |
| H29,1回目,純大生<br>慢性期 | 事例を考えていく中で，それぞれの考えを聞き，医学，看護からの考えと私たち社会福祉士の意見はあまり変わらなく思った．社会のサービスの仕組みをしっかり学べていないと解決出来ないし，また強く思ったのは本人を尊重することだと思った．他の班の意見を聞くことで様々な対応があると感じられた． |



## 3－1　年度別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析

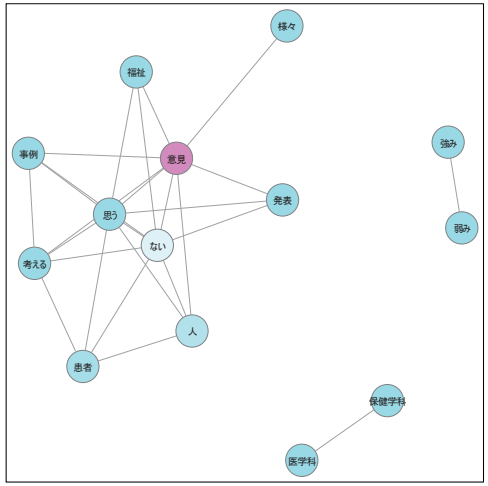
表Ⅲ－8　特徴語の一覧表

| H27 | | H28 | | H29 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 |
| 思う | .296 | 出来る | .305 | 出来る | .312 |
| 意見 | .250 | 人 | .212 | 自分 | .264 |
| ない | .236 | 授業 | .208 | ない | .259 |
| 考える | .218 | 福祉 | .199 | 意見 | .252 |
| 人 | .200 | 知識 | .168 | 視点 | .234 |
| 事例 | .184 | 医療 | .161 | 考える | .228 |
| 福祉 | .177 | グループワーク | .161 | 感じる | .207 |
| 発表 | .174 | 他 | .153 | 患者 | .199 |
| 患者 | .167 | 連携 | .150 | 聞く | .198 |
| 様々 | .155 | グループ | .147 | 事例 | .193 |

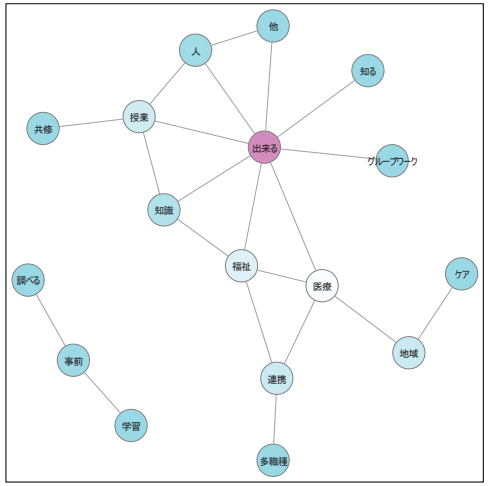
年度別の外部変数を用いて特徴語の一覧表を作成した結果，順番には違いが見られるが，複数の外部変数で「意見」「ない」「考える」「人」「事例」「福祉」「患者」等の共通する語が観察された．



## 3－1　年度別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－6　H27の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.2　Node=14　Edge=26　Density=.286）

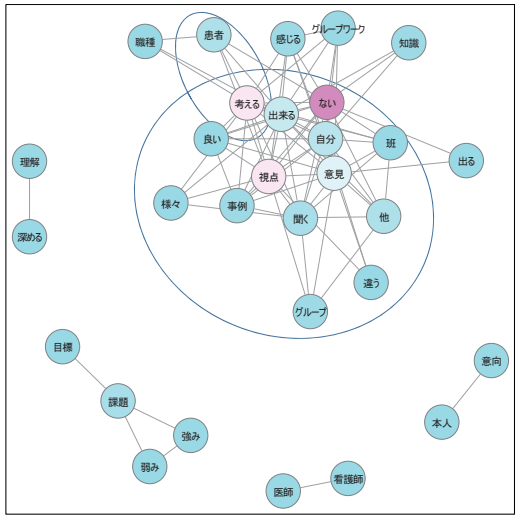



図Ⅲ－7　H28の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.2　Node=17　Edge=21　Density=.154）

H27
「強みと弱み」「保健学科と医学科」「考えないような意見」「福祉の意見」「様々な意見」「人の意見」「患者について考える」等

H28
「多職種連携」「医療と福祉の連携」「福祉の知識を知ることが出来る」「事前学習」等

## 3－1　年度別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－8　H29の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.2　Node=30　Edge=89　Density=.205）

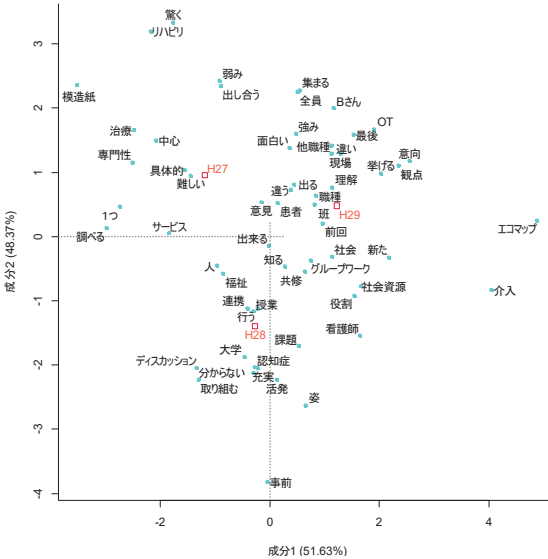
H29
- 「他の班を聞く」
- 「考えないような意見を聞く」
- 「自分にない意見/知識を聞くことが出来る」
- 「自分とは違う視点」
- 「様々な意見/視点」
- 「グループワークを通して意見を聞く/意見が出る」
- 「事例を考える」
- 「患者について考える」
- 「理解を深める」
- 「目標と課題と強みと弱み」等

✓ 共修授業の年度別の特徴語を用いた共起関係をみると，H27とH29では
- 「強みと弱み」
- 「考えないような意見」
- 「様々な意見」
- 「患者について考える」

等の共通する共起関係が見られた．



## 3－1　年度別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




共通点：
「出来る」「違う」「意見」「患者」「知る」「人」「福祉」「共修」「グループワーク」等

H27に特徴的な語：
「治療」「リハビリ」「驚く」「専門性」等

H28に特徴的な語：
「充実」「活発」「姿」「認知症」「分からない」「取り組む」「事前」等
⇒「（略）特に，医学科，保健学科だけでは福祉の支援や保険について分からないことが多かったため（略）」（H28,1回目，保健学科，緩和・終末期）「（略）医学的な知識を知らないために，分からない部分があった．」（H28,1回目，純心，緩和・終末期）

H29に特徴的な語：
「エコマップ」「介入」等
⇒「（略）医療，福祉の連携のために必要な共通言語である「エコマップ」を使えるようになろうと思った．」（H29,2回目，医学科，緩和・終末期）

最小出現数:36，最小文書数：1，文章と見なす単位:段落
品詞:名詞，サ変名詞，形容動詞，ナイ形容，未知語，タグ，動詞，形容詞，名詞C，否定助動詞
分析対象となった抽出語:227語，分析に使用するデータ表の種類:抽出語×外部変数(経年比較)
集計単位:段落，差異が顕著な語を分析に使用:上位60語

図Ⅲ－9　対応分析の結果

対応分析の結果から，原点近くに「出来る」「違う」「意見」「福祉」「グループワーク」等が観察され，これらの用語は共修授業の実施年度の相違に関わらず使用されていることが示唆された．また，共修授業の年度毎の特徴語も見られ，H27は，「治療」「リハビリ」という抽出語が，H28では，「認知症」「事前」等の抽出語が，さらにH29では，「エコマップ」「介入」等が現れるなど，抽出語に違いが見られた．



## 3－2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析

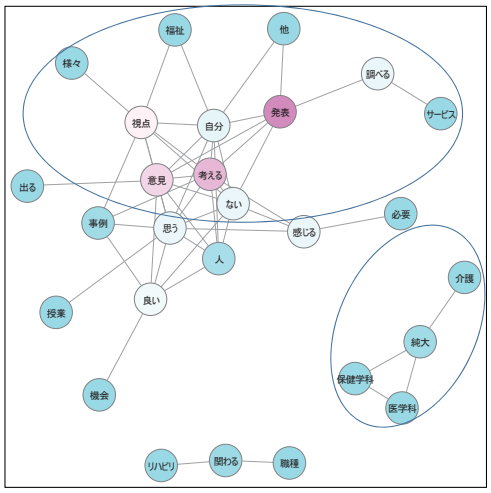
表Ⅲ－9　特徴語の一覧表

| H27-急性期 | | H27-慢性期 | | H27-緩和・終末期 | | H27-治療継続拒否 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 |
| 人 | .090 | 患者 | .084 | 意見 | .090 | 意見 | .086 |
| 思う | .089 | 考える | .081 | 思う | .087 | 思う | .083 |
| 機会 | .088 | 学生 | .077 | Cさん | .078 | 様々 | .081 |
| 視点 | .087 | 人 | .077 | ない | .076 | 視点 | .081 |
| ない | .087 | 症例 | .077 | 介護 | .074 | 調べる | .080 |
| 良い | .084 | 自分 | .076 | 感じる | .074 | 出来る | .079 |
| 調べる | .083 | 認知症 | .075 | 重要 | .073 | 事例 | .079 |
| 異なる | .081 | 福祉 | .073 | 家族 | .072 | 看護 | .078 |
| 考える | .081 | 見る | .072 | 話し合い | .071 | 持つ | .075 |
| 自分 | .081 | 介護 | .071 | 具体的 | .071 | 学科 | .073 |
| **H28-慢性期** | | **H28-緩和・終末期** | | **H29-慢性期** | | **H29-緩和・終末期** | |
| 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 | 抽出語 | Jaccard係数 |
| 出来る | .168 | 思う | .159 | 出来る | .168 | 出来る | .161 |
| 授業 | .131 | 出来る | .154 | 視点 | .153 | 思う | .155 |
| 人 | .129 | 授業 | .145 | ない | .151 | 自分 | .154 |
| 福祉 | .126 | 人 | .141 | 自分 | .151 | 考える | .152 |
| 純大 | .120 | 福祉 | .134 | 意見 | .146 | 班 | .149 |
| グループワーク | .114 | 知識 | .133 | 感じる | .140 | ない | .149 |
| グループ | .111 | 連携 | .118 | 聞く | .138 | 意見 | .148 |
| 知る | .107 | 医療 | .117 | 事例 | .134 | グループワーク | .145 |
| 学ぶ | .106 | 発表 | .116 | 知る | .133 | 患者 | .138 |
| 連携 | .104 | 良い | .114 | 良い | .128 | 視点 | .136 |

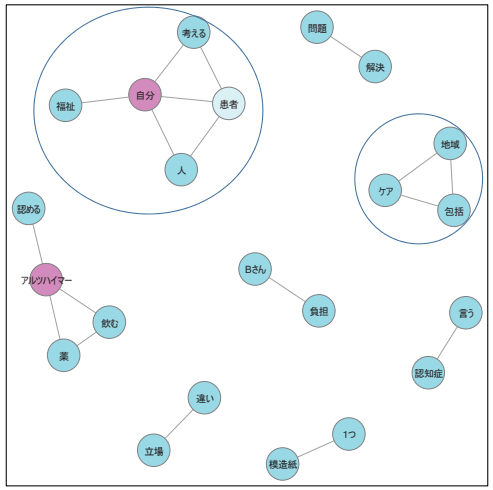
年度別と事例別の外部変数を用いて特徴語の一覧表を作成した結果，順番には違いが見られるが，複数の外部変数で「人」「思う」「視点」「ない」「良い」「患者」「福祉」「介護」等の共通する語が観察できた．



## 3－2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－10　H27急性期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=27　Edge=52　Density=.148）

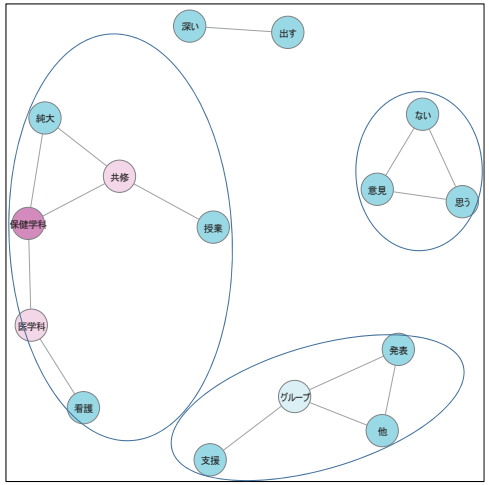



図Ⅲ－11　H27慢性期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=22　Edge=18　Density=.078）

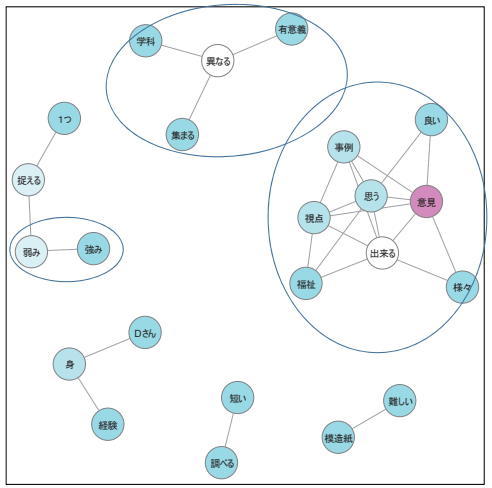
H27急性期
「純大，介護，医学科，保健学科」「自分の意見，他の意見」「様々な視点」「サービスを調べる」「福祉の視点」「他の発表」等

H27慢性期
「地域包括ケア」「立場の違い」「患者について考える」「福祉と自分」「人と自分」「アルツハイマーを認める，薬，飲む」「認知症を言う」等

## 3-2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－12　H27緩和・終末期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=15　Edge=14　Density=.133）



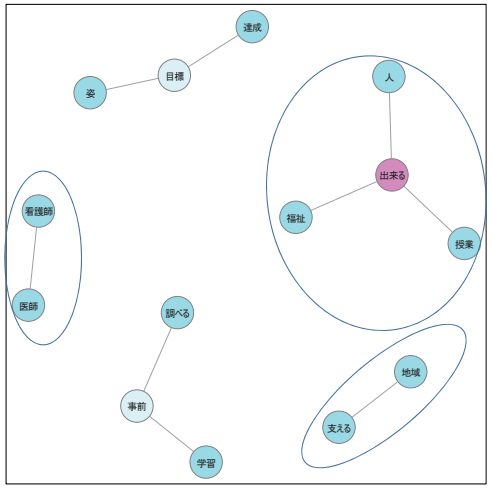

図Ⅲ－13　H27治療継続拒否の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=23　Edge=27　Density=.107）

H27緩和・終末期
「純大，保健学科，医学科，看護，共修，授業」「他のグループの発表」「ない意見，思う」等

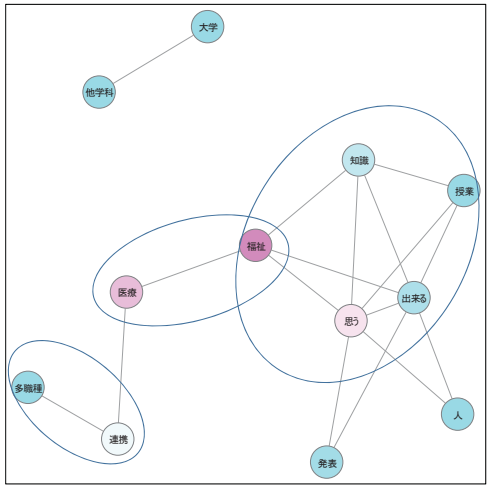
H27治療継続拒否
「強みと弱み」「異なる学科が集まる，有意義」「福祉の視点からの意見」「様々な意見」「良いと思う」等



## 3-2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－14　H28慢性期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=14　Edge=9　Density=.099）



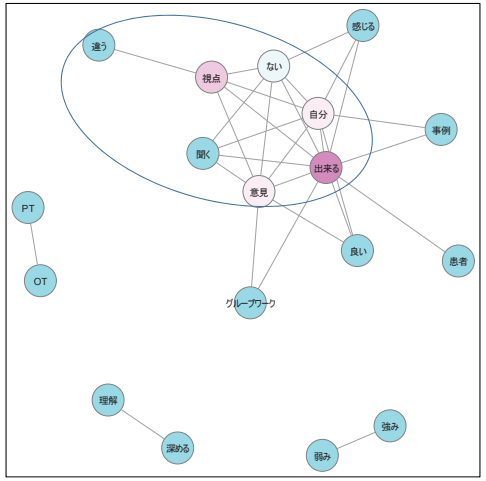

図Ⅲ－15　H28緩和・終末期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=12　Edge=17　Density=.258）

H28慢性期
「地域を支える」「医師と看護師」「事前学習，事前に調べる」「達成目標，目標の姿」等

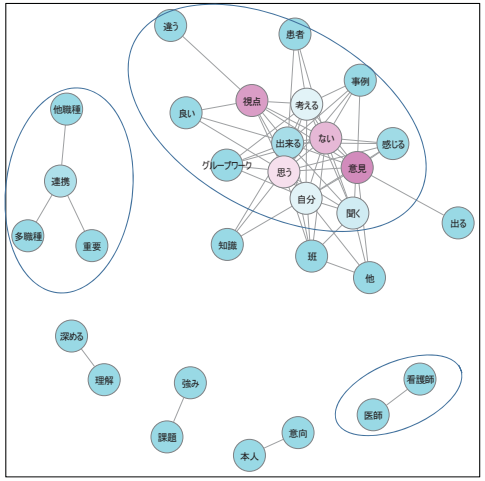
H28緩和・終末期
「多職種連携」「医療と福祉の連携」「大学と他学科」「福祉の知識」「授業で出来る」等



## 3-2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－16　H29慢性期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=18　Edge=29　Density=.19）




図Ⅲ－17　H29緩和・終末期の特徴語を用いた共起ネットワーク分析の結果
（Jaccard係数≧0.25　Node=30　Edge=69　Density=.159）

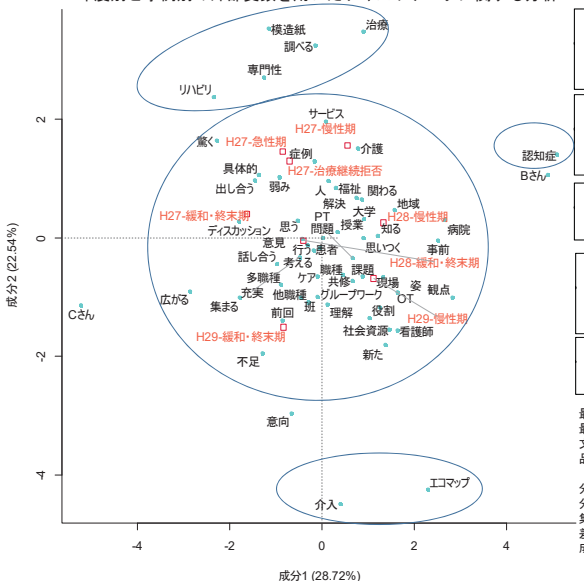
H29慢性期「理解を深める」「強みと弱み」「自分にない視点を聞くことが出来る」「違う視点からの意見」「グループワークを通して意見を聞く」等

H29緩和・終末期「多職種連携/他職種連携，重要」「理解を深める」「医師と看護師」「自分にない視点/意見を聞く」「グループワークを通して考える」「違う視点」「他の班を聞く」等

共修授業の年度別と事例別を組み合わせた外部変数を用いて共起関係を見てみると，「自分にはない意見/視点を聞く」等の共通する共起関係が観察できた．



## 3-2　年度別と事例別の外部変数を用いたテキストデータに関する分析




図Ⅲ－18　対応分析の結果

共通点
「多職種」「他職種」「理解」「知る」「福祉」「患者」「地域」「介護」等

「H27慢性期」「H27-急性期に特徴的な語
「治療」「模造紙」「調べる」「リハビリ」「専門性」」等

「H28-慢性期」に特徴的な語
「認知症」「Bさん」等

「H29-慢性期」「H29-緩和・終末期」に特徴的な語
「エコマップ」「介入」等

「H29-緩和・終末期」に特徴的な語
「Cさん」等

最小出現数：36
最小文書数：1
文章と見なす単位：段落
品詞：名詞，サ変名詞，形容動詞，ナイ形容，未知語，タグ，動詞，形容詞，名詞C，否定助動詞
分析対象となった抽出語：227語
分析に使用するデータ表の種類：抽出語×外部変数（経年-事例）
集計単位：段落
差異が顕著な語を分析に使用：上位60語
成分１が28.72%，成分２が22.54%

共修授業の年度別と事例別の外部変数を用いて対応分析を行った結果，各外部変数は原点近くに集まっていることから，原点付近に布置されている抽出語は，共修授業の実施年度と事例の相違に関わらず使用されていることを示唆することができた．一方，「H27慢性期」「H27急性期」では「治療」等が，「H28慢性期」では「認知症」等が，「H29」では「エコマップ」等が，年度毎や事例毎によって特徴的な語が見られる事を明らかにすることができた．

# Ⅳ. 考察

- 本研究では，共修授業を受講した学生のテキストデータをテキストマイニングによる分析を行うことにより，共修授業についてどの様に捉えたのかを探索的に明らかにすることを目的とした．
- H27からH29のテキストデータを用いて分析を行った結果，「医療と福祉」「多職種連携」等の共起関係が見られ，学生達は共修授業を受講することにより，医療と福祉や多職種連携ということを何らかの形で意識化しているのではないかと推察することができた．
- また，共修授業の年度別の外部変数を用いて分析を行った結果，年度別の特徴語を用いた共起ネットワーク分析では，複数の年度で「様々な意見」「理解を深める」等の類似する共起ネットワークが観察され，対応分析の結果からは，「違う」「意見」「福祉」等の抽出語がどの年度の共修授業でも用いられていることが示唆された．
- 具体的に，共修授業の年度別及び事例別の外部変数を用いて分析を行った結果，特徴語の共起ネットワーク分析の結果からは，複数箇所で「自分にはない視点を聞く」等の共通する共起関係が見られることが明らかになった．また，対応分析を行った結果，共修授業の年度と事例の相違に関わらず，受講生は「多職種」「他職種」「理解」「福祉」等を記述しているのではないかと考えられた．
- 以上の結果から，共修授業のどの年度やどの事例であっても，受講生にとって共修授業が「福祉」を意識化する機会になっているとともに，様々な意見や視点に触れる機会に繋がっているのではないかと推察することができた．
- 今後の課題として，本研究の研究結果を踏まえて，共修授業の自由記述における意味の解釈を行うなどの更なる検討が必要になってくることを指摘しておく．



# 文献


樋口耕一（2004）「テキスト型データの計量的分析－2つのアプローチの峻別と統合」『理論と方法』，19（1），101－115.

樋口耕一（2014）「社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－」ナカニシヤ出版.

三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（2017）「地域包括ケア研究会報告書ー2040年に向けた挑戦ー」

Nagata Yasuhiro（2017）「Interprofessional education involving both healthcare and social welfare as intercollegiate program 」第49回日本医学教育学会.

奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか（2017）「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部との共修授業に関する一研究－社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その2）」『純心人文研究　第23号』，91－114.

奥村あすか・潮谷有二・永田康浩 ほか（2018）「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部との共修授業に関する一研究－平成29年度の研究成果を中心として－ 」『純心現代福祉研究　第22号』，77－96.

潮谷有二（2012）「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究－社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して－」日本社会福祉学会編『対論社会福祉学3　社会福祉運営』中央法規，281－324.

潮谷有二・永田康浩・奥村あすか ほか（2017）「長崎大学医学部と長崎純心大学人文学部現代福祉学科との共修授業に関する授業評価尺度の開発－社会保障制度における地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み（その3）」『純心人文研究　第23号』，115－132.

吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩 ほか（2018）「長崎純心大学の「地域包括ケア論」及び長崎大学医学ブと長崎純心大学人文学部現代福祉学科との共修授業に関する一研究－平成28年度の研究成果を中心としてー」『純心現代福祉研究　第22号』，57－76.


※本研究は，文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である．